

令和7年度日高山脈襟裳十勝国立公園協議会

第3回登山道部会 議事要旨

■日時:令和8年3月4日(水)10:00~12:00

■場所: Web 会議システム

■議事概要

1. 開会(司会:北海道地方環境事務所国立公園課課長補佐 田畑)

2. 議事

協議事項 (仮称)日高山脈襟裳十勝国立公園登山道利用体験グレード(案)について

・資料1及び参考資料について、事務局より説明。

<質疑等> ※→:事務局 ⇒:資料提供者

○グレーディングマップについて、額平川コースの幌尻山荘～稜線間に徒渉マークが2つあるが、稜線側の1つは稜線上に位置するため、徒渉ではなく、岩稜帯またはやせ稜線が適切ではないか。

→修正案について、個別に相談する。

○十勝幌尻岳は、登った実感として楽古岳と同程度に感じる。十勝幌尻岳が楽古岳より低いグレードで問題ないか確認したい。

→バックデータでは楽古岳43点、十勝幌尻岳37点で、30点台・40点台の境目によりC、Dに分かれている。これまで、WGメンバーから指摘はなかった。グレード差はあるが、各山固有の難しさ等は留意事項として記載し、登山者に認識してもらう方針である。

○十勝幌尻岳は2016年の台風で従来の沢沿い登山道が崩壊後、古い作業道を活用した新ルートにより沢沿い歩行が大幅に短縮し、難易度が下がったと考えられ、現時点のグレードは妥当と考える。

ただし、沢沿いルートのため、再び使用不能になる可能性もあること、留意しておく必要がある。

→日高山脈の登山道は刻々と状況が変わるため、グレードマップについても年に1回程度見直しを図っていく。

○表記の揺れやレイアウトのずれが散見される。例えば、ルートの留意事項の部分では、「コース」と「ルート」が混在しており、統一または使い分けルールの明確化が必要。また、幌尻岳の「千呂露川二岐沢コース」と「チロロ林道コース」の表記もバックデータ含め統一すべき。

○グレーディングマップの専用林道等の留意事項に、文章途中での改行やレイアウトの乱れがある。公開物として最終チェックを徹底してほしい。

→文言の統一や使い分けのルール明確化を含め、全体を見直した上で公表する。公表前に構成員にも確認を依頼する。

○ルートの留意事項のみ語尾が体言止めになっており、他の箇所と統一されていない。原案のとおり問題ないか、検討いただきたい。

→ルートの留意事項部分は、端的かつストレートにメッセージを伝えることを優先して体言止めをしていた。再度見直しを図る。

○ルートの留意事項に「ゴルジュ」という言葉が使われているが、一般の人にはわかりにくい。説明を加えた方がよいのではないか。

→ゴルジュについては一般の方にわかりにくいため、言葉の説明を追記する。

○「まず留意いただきたいこと」の装備欄に手袋・帽子・防寒着等はあるが、ヘルメットの記載がない。日高山脈の登山者はヘルメットを携行しており、特に沢ルートでの着用について触れるべきではないか。

→ヘルメットについても追記する方向で検討する。

○ヒグマのコラムについて、「3名の登山者が亡くなる事故」は1970年の福岡大学ワンゲル部の事故と思われるが、年号を入れていないのは意図的か。55年前の事故であり、頻繁に起こるものではないという見方と、年号がないことで最近も事故が起こっている可能性を示唆させる見方の両方が考えられる。

→カムイエクウチカウシ山の事故年については、先日の羅白岳の死亡事故も踏まえ、あえて古い話であるという書きぶりはない。ヒグマの生息地であり死亡事故の危険があることについて最大限の注意喚起をする意図である。

○通行止め情報について、表の留意事項と裏のマップの記載内容が合致していない部分がある。合致するように対応すべきではないか。

→一時的な通行止めについては、マップ上にマーク等で示していない。マップを見た方が誤認されるリスクがあるということで、どのような対応がよいか検討する。

(2)その他各構成員からの情報提供【報告】

1)登山者カウンター及びトレイルカメラの設置予定について(帯広・新ひだか自然保護官事務所)

・登山者カウンター及びトレイルカメラの設置予定について、事務局より説明。

○カウンターについては、入林者名簿のあるところに設置して、記帳率の推定にも活用するという考えもあるのではないか。

→想定している2地点のうち1地点については、日高北部森林管理署が入林者名簿の記載者数を取っている場所とリンクできるような場所にできないかと考えており、そうした活用も可能と考えている。

2)日高北部森林管理署管内の入林者名簿記載者数について(日高北部森林管理署)
・日高北部森林管理署管内の入林者名簿記載者数について、日高北部森林管理署より説明。

→報告事項1で報告のあったカウンター等によるデータと、チロロ林道の入林者名簿データを照合することで、入林者名簿の記帳率も把握できると考えており、環境省と連携して入林状況の正確な把握に努めていく。

3)十勝西部森林管理署管内の山岳及びアクセス道の状況について(十勝西部森林管理署)

・十勝西部森林管理署管内の山岳及びアクセス道の状況について、十勝西部森林管理署より説明。

○伏美岳へつながるトムラウシ沢林道が、令和8年度も引き続き工事とのことだが、報告資料では「歩行自体は可能」との記載がある。歩行ができなくなる可能性はあるか。

⇒現在具体的な設計を実施中であり、歩行含め通行止めにするかどうかは追って共有する。

→承知した。連絡内容をもとにグレーディングの留意事項の記載内容も調整したい。

○コイカクシュサツナイ岳、カムイエクウチカウシ山の入林者数は、実態より極端に少ないと思われる。入林簿の設置場所を変えるか、それが難しければ入林簿の設置場所が登山口から離れていることについて、どこかに注記すべきではないか。

⇒検討させていただく。

4)十勝山岳連盟の活動について(十勝山岳連盟)

・十勝山岳連盟の活動について、十勝山岳連盟より説明。

○自然公園法上の歩道管理者は現時点で存在しないところ、管理責任に係る問題等が今後出てくると考える。例えば、ロープの設置に関しても、もしそれが切れた場合の責任の所在は今後話題になる可能性がある。登山道部会でも扱っていかなければならない話題と考えている。

→利用体験グレードが完成した後、こうした課題についても皆様と議論できればと考えている。

3. その他

○第2回登山道部会で十勝自然保護協会から質問のあった、国有林での生分解性テープの使用状況について、長期にわたって維持しなければならない表示は生分解性への切り替えはできていないが、短期で利用するものについては、部分的ではあるが、生分解性の標識テープを導入しているところである。日高北部森林管理署の事

業で設置したテープについて、役割を終えたものは適宜除去するよう、徹底したい。

4. 閉会